

I 研究の概要

1 研究主題

主体的に学び、学びを実感できる授業づくり ～児童が考えを深める授業を目指して～

2 研究主題設定の理由

本校では、昨年度より「主体的に学び、学びを実感できる授業づくり～算数科の授業における単元デザインを意識して～」という研究主題で、単元全体を見通して、つけさせたい力を明確にして実践を積み重ねてきた。また、児童の授業の振り返りにおいても、児童が学びの過程を振り返り、自己の変容に気付くことができるようにしてきた。

その結果、単元デザインシートを作成し、児童に単元を通してどのような力をつけるのかを意識して実践することで、身に付けさせたい算数的な見方・考え方を明確にすることに一定の成果が得られた一方で、授業後半の深める場面において、児童が主体的に学びを進めていくことに課題が残った。

児童の主体的な姿を引き出すためには、個別最適な学びと共に児童に対話力を身に付けさせ、協働的な学びへの意識を高めながら、ねらいを達成する授業を目指していく必要がある。

以上の点から、今年度は、①「授業の後半の学びの充実」②「児童の主体の姿を引き出す手立て」に重点を置き、個別最適な学びと協働的な学びのバランスをとりながら、研究主題の「主体的に学び、学びを実感できる授業づくり」を推進していきたい。

3 研究の内容

(1) 授業の後半の学びの充実

- 学びを深めるために、協働的に学ぶ場면을コーディネートする。(学びを深める問い返し)
- 協働的に学ぶ意味について教師と児童で共通理解を図り、日常的に確認する。
- 授業の中で児童同士の対話を高めさせる。
- 授業の課題に対するまとめを自分で考える力を育てる。

(2) 児童の主体の姿を引き出す手立て

- 教師が児童に単元を通してつけさせたい力を明らかにするために、「単元デザインシート」を作成する。
- 単元をデザインする際に、児童に学びを委ねる場面を設定する。(個別最適な学び)
- 既習掲示や具体物などの教室環境を整える。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、1時間の中で児童の様子を見取る場面を設定する。
- 教師と児童が単元計画を共有し、学習の見通しを持つようにする。
- 児童のペースで学び方を選択する。(一人で・グループで、問題を選ぶ)
- ICT を効果的に活用する。

4 検証方法

(1) 授業整理会を生かした授業改善

研究授業では、授業を見る視点に沿って、授業整理会を行う。授業のゴールを児童の姿で具体的に明記し、その姿に達しているかとその要因について検証する。

(2) 評価テスト・評価問題等各調査

評価テストの結果や授業のノートなどから検証する。また、学力調査の問題や石川県の評価問題等を単元の評価問題として実施し、その結果を検証する。

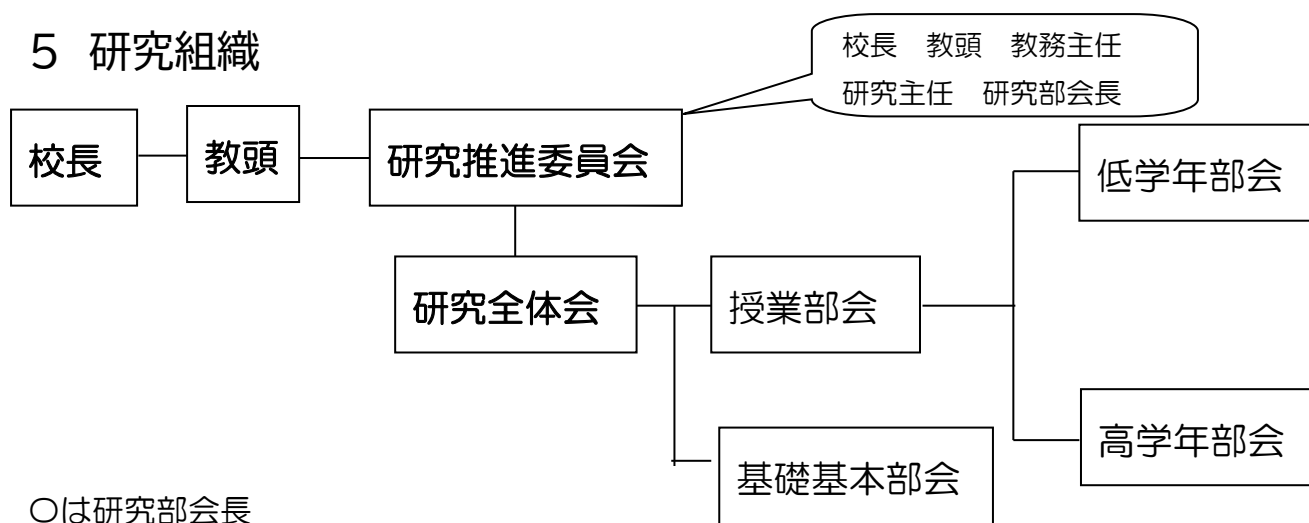
(3) 児童アンケート・教師によるアンケートの実施

児童・教師の取り組み状況を把握し、検証する。

(4) 児童の振り返り

児童が単元全体や授業において、どのように学んで、何を理解したかを検証する。

5 研究組織



	内容	構成とメンバー
研究主任	<ul style="list-style-type: none"> 研究の全体計画、研修計画の立案・実施 研究全体会の企画・運営 研究授業・授業整理会の企画・運営 研究物についての提案・総括 	山田
基礎基本部会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な学習内容の定着のための取り組み ICT 活用のスキルの向上を目指した取り組み 「対話の時間」の取り組み 	○吉村・山田 ○種谷・田中・吉村 ○表・山田
授業部会(低)	<ul style="list-style-type: none"> 指導方法・学習活動の工夫 模擬授業や指導案検討 研究授業 	○吉村・菅波・田中 齊官・教頭
授業部会(高)	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの実施 研究フィードバックの作成 	○山田・丸山・種谷 表

6 研究全体構造図

学校教育目標

自ら学び、協働し、未来を拓く児童の育成

研究主題

主体的に学び、学びを実感する授業づくり
～児童が考えを深める授業を目指して～

算数で 目指す 児童の姿

チャ【れん】ジ → 「もっとやりたい」
【だい】好き → 「算数大好き！」
【じ】分達で → 「わかった」「できた」

児童の実態

- ・与えられた課題には真面目に取り組む、基礎基本が身についている児童が多いが、個別に配慮を要する児童も各学年にいる。
- ・主体的に取り組もうとする意識は全体的に高くない。
- ・自分の考えを表すことに課題が見られる。
- ・テーマに沿って対話する力が育っていない。

主体的に学び、学びを 実感する授業づくり

- ①授業の後半の学びの充実
- ②児童の主体の姿を引き出す手立て

<基礎学力の定着(学力向上・GIGA 推進)>

- ①基礎的な学習内容の定着
 - ・Qubena やデジタルドリルの活用
 - ・蓮小計算検定の取り組み
- ②ICT 活用のスキルの向上
- ③対話力を高める活動(対話の時間)

温かい学級づくり(生徒指導)

- ①学習指導と生徒指導の一体化
- ②学習集団として高まるための基盤づくり(学習規律を守る)

教師の願い

- ・自分の考えをもち、意欲的、主体的に学ぶ子を育てたい。
- ・基礎基本の学習内容を確実に身につけさせたい。
- ・簡単にあきらめずに、自分の課題に粘り強く取り組んで欲しい。
- ・誰とでも対話できるスキルを身に付け、様々な場面でコミュニケーションをとることができるようになってほしい。

検証

- ・授業整理会
- ・評価テストや評価問題等
- ・アンケート
- ・児童の振り返り

II 研修計画

月	日	研修	内容等
4	16	研究全体会①	今年度の研究の方針・検証の方法・研究組織・研修計画の提案
5	中旬	研究全体会②	単元デザインシート、授業整理会についての提案
5	14	研究全体会③	対話の時間の提案、5年指導案検討
6	上旬	模擬授業①	5年模擬授業
6	12	研究授業・授業整理会（計画訪問）	5年研究授業（計画訪問）・授業整理会
7	上旬	研究アンケート	児童アンケートの実施・集計、教員アンケート
7	下旬		2学期の単元デザインシートの作成
8		部会（低）	2年指導案検討・1年指導案検討
8		校内研修（授業づくり）	協働的な学びについて
8	23	研究全体会④	1学期のまとめと2学期の取組について
9	6	部会（高学年）	2年指導案検討
9		模擬授業	2年模擬授業
9		研究授業・授業整理会（校内研修）	2年研究授業・授業整理会
10		部会（低学年）	1年指導案検討
11		模擬授業	1年模擬授業
11		研究授業・授業整理会	1年研究授業・授業整理会
12	中旬	研究アンケート	児童アンケートの実施・集計、教員アンケート
12	22	部会（低・高）	研究のまとめについて
12	下旬		単元デザインシートの実践の振り返り② 3学期に向けて単元デザインシートの作成
1	20	研究全体会⑤	研究のまとめと次年度の研究に向けて
2	下旬	研究アンケート	児童アンケートの実施・集計、教員アンケート
2	下旬		単元デザインシートの実践の振り返り③
3	10	研究全体会⑥	次年度の研究の方向性について

- ・研究全体会の前に**研究推進委員会**を行う。
- ・全体研（5年・2年・1年）
- ・単元デザインシートまたは、指導案を3学期末までに全員が2回以上作成し、実践・振り返りを行う。また、単元デザインシートを活用して、学期に1回授業交流に取り組む。